

## 令和 3 年度第 1 回地域福祉専門分科会における新評価への主な意見と対応

○新評価に対する主な意見（7 件）		
No	意見（要約）	対応
1	評価について、なぜ「事業実施」、「課題」「連携」の 3 つの項目を基準とするのか。「課題」と「連携」の評価は、途中経過の話であるため、結果が出ずとも、S 評価になることもあるのではないかな。	資料 2 のとおり、本計画の目指す地域共生社会の実現は、常にその最善の状態を目指し続けるものと捉えております。各事業担当課においては、事業の到達度に加え、最善の状態に向けて取り組み続けている状況（課題及び連携の取り組み状況）も評価したいと考えております。
2	評価基準に関して、“十分”や“一定”の程度について、何らかの目安が必要なのではないか。	個別事業評価は、量的評価が困難なものも含め様々な性質を持つ個別の事業について事業所管課が自己評価として行うものであることから、評価基準を明示することは難しいと考えております。
3	今回の第 4 期計画については、これまでとは違う評価や基準をもってきて、第 3 期に比べてかなり厳しいと思われるようなものが必要なのでは。	そこで、資料 3 のとおり、第 3 期評価の課題を改善する形で刷新し、事業の状態（目標の到達度及び事業推進の状況、その変化）も分かるようにいたしました（資料 5-1、5-2）。事業所管課においては資料 5-2 の評価の過程で取り組みの課題等を認識し、さらに中間年度、最終年度に実施する地域団体等へのヒアリングの結果から、自己評価とのずれを補正し、次年度以降の取り組みに活かせることを目指しています。
4	予定を上回る実績・進捗があった場合、A とあるが、予定を低く設定するとすぐ S となるので予定の組み方を何かしら工夫する必要がある。	
5	総合評価シートについて、その事業の目的に沿った成果が本当に上がったかどうか。本当の成果の部分を書く欄が必要なのでは。	資料 5-1（3 ページ）の記載例のとおり、「事業実施」の欄に、全体の傾向に加え、特筆すべき成果についての実績を記載します。
6	それぞれの自己評価を行うにあたり、可能な限り根拠を示してもらおうとよいのではないかな。	各事業担当課が記載する、資料 5-2 の個別事業評価票に根拠(それぞれの基盤計画で定める目標値や昨年の実績値など)を記載する欄を追加いたしました。
7	1 つの事業に対して担当課や、連携課を、見える化すると、そこでどれだけ議論したか、施策を進めたのかがわかりやすくなるのではないかな。	各事業担当課が記載する、資料 5-2 の個別事業評価票に主な連携先や新たに拡充した連携先を記載する欄を追加いたしました。